

摂津市議会

駅前等再開発特別委員会記録

平成24年11月21日

摂津市議会

目 次

駅前等再開発特別委員会

11月21日

会議日時、場所、出席委員、説明のため出席した者、出席した議会事務局職員、審査案件	1
開会の宣告	2
市長あいさつ	
委員会記録署名委員の指名	2
認定第1号所管分の審査	2
補足説明（都市整備部長）	
質疑（弘豊委員、大澤千恵子委員、森西正委員、上村高義委員、三好義治委員、渡辺慎吾委員）	
採決	30
閉会の宣告	30

駅前等再開発特別委員会記録

1. 会議日時

平成24年11月21日(水) 午前10時 開会
午後 1時38分 閉会

1. 場所

第二委員会室

1. 出席委員

委員長	藤浦雅彦	副委員長	渡辺慎吾	委員	大澤千恵子
委員	上村高義	委員	弘 豊	委員	森西 正
委員長	三好義治				

1. 欠席委員

なし

1. 説明のため出席した者

市長	森山一正	副市長	小野吉孝
都市整備部長	吉田和生		
都市計画課長	新留清志	同課参事	品川明輝
		同課長代理	寺田満夫

1. 出席した議会事務局職員

事務局局次長	藤井智哉	同局書記	田村信也
--------	------	------	------

1. 審査案件

認定第1号 平成23年度摂津市一般会計歳入歳出決算認定の件所管分

(午前10時 開会)

○藤浦雅彦委員長 ただいまより、駅前等再開発特別委員会を開会します。

理事者から挨拶を受けます。

森山市長。

○森山一正市長 おはようございます。

連日、委員会等々でお忙しいところ、本日は駅前等再開発特別委員会を開催していただきまして、大変ありがとうございます。

先の本会議で、当委員会に付託されました平成23年度一般会計歳入歳出決算所管分についてご審査を賜るわけですが、どうぞ慎重審査の上、ご認定いただきますようよろしくお願いいたします。

一旦退席させていただきます。

○藤浦雅彦委員長 挨拶が終わりました。

本日の委員会記録署名委員は大澤委員を指名します。

暫時、休憩いたします。

(午前10時1分 休憩)

(午前10時2分 再開)

○藤浦雅彦委員長 再開します。

認定第1号所管分の審査を行います。

補足説明を求めます。

吉田都市整備部長。

○吉田都市整備部長 補足説明の前に、先般、事務報告書の記載内容につきまして、一部に誤りがありましたことで訂正をさせていただきます。大変ご迷惑をおかけいたしましたことについて、深くおわび申し上げます。

それでは、認定第1号、平成23年度摂津市一般会計歳入歳出決算所管分のうち、都市整備部にかかわる部分につきまして、目を追って、主なものについて補足説明をさせていただきます。

まず、歳入でございますが、摂津市一般会計歳入歳出決算書の38ページをお

開き願います。

款14、国庫支出金、項2、国庫補助金、目3、土木費国庫補助金、節1、都市計画費補助金では、1行目の社会資本整備総合交付金のうち255万1,000円は、南千里丘まちづくり事業に係る交付金でございます。

次に、58ページ、款19、諸収入、項4、雑入、目2、雑入、節1、雑収入では、都市計画課の項目の2行目、南千里丘土地区画整理事業の終了に伴います区画整理清算金と、3行目の吹田操車場跡地まちづくり事業において、鉄道・運輸機構から市が取得いたしました土地の引き渡しが遅延したことに伴います、土地引渡遅延料でございます。

続きまして、歳出でございますが、決算書の160ページをお開き願います。

詳細につきましては、決算概要126ページから130ページにかけて記載いたしておりますのでご参照願います。

款7、土木費、項4、都市計画費、目2、街路事業費では、執行率91.4%でございます。詳細につきましては決算概要126ページ、並びに事務報告書199ページでは阪急正雀駅前整備支援事業に係る内容を記載いたしておりますので、あわせてご参照願います。

節9、旅費は、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る普通旅費でございます。

節11、需用費は、阪急正雀駅前地区整備支援事業に係る消耗品費と、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る印刷製本費でございます。

節19、負担金、補助及び交付金は、阪急京都線連続立体交差事業に係る大阪府連続立体交差事業協議会負担金と、吹田操車場跡地まちづくり事業において、UR都市機構の施工による吹田操車場跡地土地区画整理事業に伴います平成23

年度における社会資本整備総合交付金に係る本市負担金と、都市再生補助金としまして、鉄道・運輸機構の工事の遅れに伴い、平成22年度から明許繰り越しを行わせていただいて、都市再生区画整理に係る市負担金、そして防災公園街区整備事業としてUR都市機構に施行委託いたしております千里丘公園整備に係る市負担金でございます。

続きまして、162ページ、目5、再開発事業では執行率66.2%でございます。詳細については、決算概要128ページに記載いたしておりますので、あわせてご参照願います。

節9、旅費は、千里丘西地区市街地再開発支援事業に係る普通旅費でございます。

節11、需用費は、千里丘西地区市街地再開発支援事業に係る印刷製本費でございます。

続きまして、目6、南千里丘まちづくり事業では執行率56.6%でございます。詳細については、決算概要128ページから130ページ、並びに事務報告書197ページに記載いたしておりますので、あわせてご参照願います。

節8、報償費は、南千里丘まちづくり事業における南千里丘地区まちづくり交付金事業事後評価委員会の実施に伴います委員に係る報償金でございます。

節9、旅費は普通旅費でございます。

節11、需用費は消耗品費でございます。

節13、委託料は、南千里丘まちづくり事業における分筆等測量業務委託及びまちづくり交付金事業事後評価業務委託料でございます。

節15、工事請負費では、平成22年度から繰り越しました工事2件でございます。

続きまして、162ページから164ページにかけて、目7、土地区画整理事業では執行率85.7%でございます。詳細については、決算概要130ページ、並びに事務報告書197ページに記載いたしておりますので、あわせてご参照願います。

節9、旅費は普通旅費でございます。

節11、需用費は消耗品費でございます。

節13、委託料は、南千里丘土地区画整理事業パンフレット作成業務委託料でございます。

節19、負担金、補助及び交付金は、南千里丘土地区画整理事業終了に伴い、事業による剰余金の使い道について、地権者の全員同意により、市の環境基金への寄附としての清算金でございます。

以上で、認定第1号、平成23年度摂津市一般会計歳入歳出決算所管分につきまして、補足説明を終わらせていただきます。

○藤浦雅彦委員長 説明が終わり、質疑に入ります。

弘委員。

○弘豊委員 最初に歳入にかかわって、社会資本整備総合交付金、ご説明がりましたが、南千里丘まちづくり事業分ということで255万1,000円ということ。当初予算のほうでは100万円ということ、平成23年度は計上されていたかと思うんですけども、この中身を詳しくお聞かせいただけたらと思います。

それから、もう1件の土地引渡遅延料です。発生した経緯もご説明いただきましたけれども、これも詳しくお聞かせいただけたらと思います。どうしてこういうことになったのかということです。

次に、歳出にかかわっては、決算概要

のほう詳しく記されていますので、こちらのほうでお聞きしたいというふうに思います。

決算概要の126ページ、阪急正雀駅前地区整備支援事業、これについても毎年聞かせていただいていますけれども、平成23年度は消耗品費ということで1万1,560円が執行されていますが、この中身、どういった支援をされてこられたのかということをお聞きしておきたいと思います。

それから、吹田操車場跡地まちづくり事業にかかわってなんですけれども、これについては千里丘公園整備負担金ということで、1億1,129万円の執行となっております。予算と比べると、1,071万円の残額が出ておるんですけれども、ほかの負担金は予算がそのまま全額執行となっております。都市再生補助負担金についても、明許繰越ということで、昨年ご報告のあったとおりの執行となっているかと思うんですけれども、この千里丘公園の整備負担金についてご説明をいただけたらと思います。

あと、阪急京都線連続立体交差事業にかかわってなんですけれども、平成23年度の予算では調査委託料ということで500万円を計上されていたかと思うんです。それにかかわって質疑もさせていただいているんですけれども、決算には載っておりません。協議会の負担金2万円の執行で、執行率が100%ということで、決算概要に記されているわけです。そのあたりはどうなのかということをお聞きしておきたいと思います。

あと、決算概要の128ページに移りまして、南千里丘まちづくり事業についてです。この点も決算概要を見ていましたら、130ページになりますけれども、阪急新駅設置負担金、それから境川周辺

整備工事負担金、この項目が上がっておりますけれども、執行額がゼロということで、ここのご説明もいただけたらと思います。

あと、130ページの南千里丘地区区画整理事業では、区画整理整備調査委託料ということで、49万3,500円の執行となっております。これについても、当初予算では、217万円と計上されていたかと思うんですけれども、決算概要の中では予算現額で100万円というようなことで、執行額は49万500円。この中身と、私の認識のほうで齟齬があるので、お聞かせ下さい。
○藤浦雅彦委員長 答弁を求めます。

品川参事。

○品川都市計画課参事 まず、歳入の土地引渡遅延料についてですが、こちらにつきましては、もともと平成20年8月に鉄道・運輸機構から土地を購入しておりまして、その土地を購入したときには「平成23年3月31日までに本市の所有権を妨げる者がいない状態で引き渡すこと」を規定して土地を購入しております。ただ、実際、事業を進めていく中で、鉄道・運輸機構のほうから引き渡しが遅れるという通知がありました。経過で申しますと、もともと土地売買契約の中に、遅れる場合は1年以上前にその通知をしなければならないということがありましたので、平成22年3月29日に、引き渡しが遅れる旨の通知が鉄道・運輸機構から摂津市にございました。平成23年3月31日に「土地引き渡し遅延に関する覚書」を締結いたしまして、購入した全てが遅れているわけではないんですが、一部の遅れた土地についての遅延料としていただいております。

もう一点、吹田操車場跡地まちづくり

事業の千里丘公園整備負担金の予算残額が出ていていることについてですが、こちらは吹田操車場跡地まちづくり事業の中で、UR都市機構が防災公園整備事業として整備しております千里丘公園の整備に対します市の負担金として支払っている負担金でございます。平成23年度につきましては、実際に設計等に要する経費の施設費と、既にUR都市機構にて先行取得済みの用地を買い戻す用地費という2種類の費用がございまして、その内容を平成23年度の事業の中で実際に精査していく中で、平成23年度は1億1,129万円の負担ということになり、実態上、1,071万円の不用額が出てきたということになっております。

あと、阪急京都線連続連続立体交差事業につきまして、今回の決算概要では2万円で、執行率100%となっております。もともと当初予算で、委託料として500万円を計上していたのではないかということについてですが、昨年度は、まず大阪府にて策定されます大阪府都市整備中期計画（案）に位置づけられて、その後地元自治会に対してワークショップ等を開催していこうという予定で、委託調査料を平成23年度当初は計上しておりました。当初は、大阪府都市整備中期計画（案）は、年度半ばに策定される予定で大阪府のほうでは動いておりましたが、知事選の関係等いろいろありまして、実際に策定されたのが平成23年度末、平成24年3月30日付ということになってしまいました。もともと、中期計画の位置づけ、それと大阪府における事業評価委員会等の大阪府での事業としての位置づけという、ある程度が目途がついてから、地元自治会に入っていくという流れで進めておりましたので、昨年度は委託料を執行できる状況ではな

かったということで、補正予算で減額をさせていただいております。

○藤浦雅彦委員長 寺田課長代理。

○寺田都市計画課長代理 まず、社会資本整備総合交付金の255万1,000円の内容についてご答弁させていただきます。

こちらにつきましては、南千里丘地区のまちづくり交付金ということで、今、現在の名称については社会資本整備総合交付金という名称に変わっておりますが、平成19年度から交付金をいただきまして、平成23年度は最終年度に当たっております。この交付限度額が、補助率40%を限度額といたしておりますので、当初100万円という形でさせていただいておりますが、限りなく40%に近い形で交付をいただいたという内容でございます。

南千里丘まちづくり事業の負担金でございますが、こちらにつきましては、阪急新駅の設置負担金、それと境川周辺整備工事負担金ということで、平成19年度から平成22年度にかけてまして工事に対する負担金で上げさせていただいております。ただ、平成23年度につきましては、該当する業務がなかったということで決算額としてはゼロという形でさせていただいております。

南千里丘土地区画整理事業で、区画整理整備調査委託料の中身でございますが、こちらのほうについては、南千里丘土地区画整備事業の終了に伴いまして、事業記念誌といった意味もございまして、パンフレットを作成をさせていただいている内容でございます。

○藤浦雅彦委員長 新留課長。

○新留都市計画課長 阪急正雀駅前地区整備支援事業の中身につきましてご説明させていただきます。

今回、予算額は2万3,000円計上させていただいておりますが、消耗品費として1万1,560円を支出させていただいております。その中身につきましては、正雀駅前地区まちづくりワークショップ活動での、すずめのちびっこ広場の遊具への色塗りのためのペンキや軍手等に使ったものでございます。残りの印刷製本費と保険料につきましては、今回支出がなかったものでございます。

支援の中身ということでございますが、正雀駅前地区のまちづくりワークショップにつきましては、平成18年から正雀駅前地区のまちづくりワークショップということで、毎月1回、第4水曜日、午後7時より、正雀市民ルームにてワークショップを開催し、ソフト面でのまちづくりへの支援を行っておる状況でございます。

○藤浦雅彦委員長 弘委員。

○弘豊委員 ご説明いただきました。

それで、歳入にかかわって、社会資本整備総合交付金については、昨年と同じように聞いておりますので中身は理解しました。もう一件の土地引渡遅延料にかかわってなんですけれども、遅れる通知を平成22年3月にいただいて、平成23年度でこういう遅延料をいただいているというようなことになるんですけれども、遅れたことに対する影響についても、この場でお聞きしておきたいというふうに思います。

それから、阪急正雀駅前地区整備支援事業なんですけど、進めてこられて、平成23年度の活動はこうだというようなことでおっしゃったわけなんですけれども、阪急正雀駅前の今後の見通しという点では、なかなか、まだまだ見えてこないというような状況もあるかというふうには思います。

そうした中で、駅前地域の安全対策事業、これは予算を組んで、どうやって取り組まれていくのかということです。まちづくりワークショップの中で意見をしっかりと聞いて、その活動の中身がまちづくりに活かされていくというふうなことが実感できるような、そんな活動をやられているのかどうかということについて、私のほうからも意見をさせていただいているかと思うんですけども、そうした点について、今の状況も含めてお聞きしておきたいと思います。

あと、吹田操車場跡地まちづくり事業にかかわってです。千里丘公園整備負担金というようなことで、当初よりも執行額のところが少し減っているわけなんですけれども、そうした中で千里丘公園の中身で、当初思っていたよりも違ってきているような、そういったことがあるのかどうか。計画をつくる段階だから、まだかもしれませんけれども、このあたりについて再度お聞きしておきたいというふうに思います。

あと、阪急連続立体交差事業のところでご説明いただいて、平成23年度中には執行できないというようなことで、補正予算で減額したということだったんですけれども、私の認識の中で、補正予算の議論を駅前等再開発特別委員会の中で議論した認識がないのですが、いつの時点での補正だったのか。先ほどの南千里丘土地区画整理事業のところでも、委託料が217万円から100万円に減っているということなんですけれども、そこをあわせて、補正の時期について、私も記録を見てたんですけれども、そうした記載が見当たらなかったもので聞いておきたいというふうに思います。

それから、南千里丘まちづくり事業にかかわる分なんですけれども、阪急新駅

設置負担金、それから境川周辺整備工事負担金ということで、これは当初予算の中に上がっていないんじゃないかと思うんですけども、そのあたりの確認をしておきたいと思います。

○藤浦雅彦委員長 寺田課長代理。

○寺田都市計画課長代理 南千里丘まちづくり事業の阪急新駅設置負担金、並びに境川周辺整備工事負担金が、当初予算で計上されておらなかったのではないかというお問い合わせですが、こちらにつきましては継続費の予算という形でございまして、過去、平成19年度から予算計上を継続的にさせていただいている中で、平成23年度の当初予算のときには当該年度の予算立てしか予算書に記載されておらないということがございますので、過去からの予算の執行は継続して阪急新駅設置負担金、並びに境川周辺整備工事負担金というものは、逡次繰越という形で毎年度繰り越して平成23年度にきておりまして、最終年度に当たる平成23年度につきましては、こういう形で決算で表現をさせていただいているような状況でございます。

○藤浦雅彦委員長 品川参事。

○品川都市計画課参事 まず、歳入の土地引渡遅延料に関して、今回、土地の引き渡しが遅れたことに関して、事業全体の影響はどうかというお問い合わせですが、事業自体が平成27年度まで行っておる事業で、土地もある程度広い範囲を行っておるといようなこともございますので、事業全体としてはスケジュール的にはフォローアップできていけるものと考えておりまして、現状としましては、平成27年度までの事業という中では特に影響というものは出ておりません。

あと、吹田操車場跡地まちづくり事業関連の千里丘公園の負担金が減ったこと

につきまして、当初予定していた内容とどう変わったのかというお問い合わせですが、こちらにつきましては、平成23年度は実施設計を行っておる段階でございまして、平成24年度、平成25年度と工事を行い、また平成26年度以降にもその土地の買い戻し等を行っていくという、全体事業予定の中では、今年度から工事というところでは予定どおり進んでおりますので、こちらにも影響は特に出ておりません。

あと、もう一点、阪急連続立体交差事業の補正予算の時期についてですが、こちらは、平成24年の3月に補正予算で、当初予算からの減額補正を上げさせていただいております。

○藤浦雅彦委員長 新留課長。

○新留都市計画課長 阪急正雀駅前のまちづくりワークショップの中身についてですが、平成23年度におきましては、ワークショップを延べ10回開催しております。大体、毎月10名弱が参加しておられる状況でございます。

活動につきましては、平成23年度につきましては、先ほども申し上げましたが、すずめのちびっこ広場の遊具の塗りかえや、防火水槽の壁面に絵をかいたり、これにつきましては子どもを含めて22名参加しておられます。

それから、これまでに、平成22年度に作成しました、ました探訪マップ、これを活用した味舌地区の名所旧跡を訪れる、ました探訪ウォークを実施しております。このマップをもとに、まちの魅力について再発見していただいたと思っております。平成24年度につきましても、4月からもう既に6回開催している状況でございます。

○藤浦雅彦委員長 弘委員。

○弘豊委員 もう少し重ねて聞きたいん

ですけれども、歳入の土地引渡遅延料です。これについて、特に影響はないというようにお答えいただいたんですけれども、JR千里丘駅西口のエレベーター設置に影響しないか、確認のためにお聞かせいただきたいなと思います。

それと、正雀駅前地区整備支援事業なんですけれども、まちづくりに対する市民の皆さんのいろんな願いがたくさんあるというふうに認識していきまして、活動の中身についてもこの間、ずっと報告いただいているんですけれども、政策や生涯学習の所管部署がやっている、そういうワークショップと違って、都市計画課が取り組んでいる中身について、具体的に、まちの姿がどう変わっていくのというふうな、そういうイメージや展望とか、そういうふうなものが持てるような形になっていないんじゃないかと、私は聞いてずっと思っているんです。そういった意味で、平成23年度の活動を振り返っていただいて、今後どうしていくのかというふうなことについて、方向性について聞いておきたいと思っております。

それから、吹田操車場跡地の千里丘公園についてですけれども、金額的にも大きなものでありますので、気になる部分もあってお聞きしたわけでありまして。この部分については、先ほどの説明で理解しますので、この点については結構です。

次に、阪急京都線連続立体交差事業と、それから土地区画整理事業にかかわる補正予算なんですけれども、今おっしゃっていただいた平成24年3月の補正予算というようにことなんですけれども、私のほうで認識が漏れていたのかもしれませんが、これはその際に、駅前等再開発特別委員会の中で議論されたということで受けとめておきます。

もう一点、南千里丘まちづくり事業に

かかわる継続費で、予算概要にはこの項目が上がっていないけれども、決算概要にはこういった形で記載をしてあるということでもあります。予算と決算で項目が違って、これはどうなのかなというふうなことで今回お聞きしたんですけれども、そうしましたら、予算で書かれている、この事業に対するトータルの金額のところは全く違ってるといことなわけです。そうしたことで、本当にいいのかということ、実際、各年度の予算できちんと記載すべきだったんじゃないかと思うわけなんですけれども、そのあたりのことについて再度お答えいただけたらというふうに思います。

○藤浦雅彦委員長 それでは答弁をお願いします。

品川参事。

○品川都市計画課参事 歳入の土地引渡遅延料について、この引き渡しが遅れたことにより、JR千里丘駅西口エレベーター設置に影響しないかというお問い合わせですが、こちらの土地の引き渡しにつきましても、吹田操車場跡地の区画整理を行っている土地の中身の引き渡しが遅れたということになってきますので、JR千里丘駅西口エレベーター設置とはまた別事業になっておりますので、その関係は全く関係なく動いております。

○藤浦雅彦委員長 新留課長。

○新留都市計画課長 阪急正雀駅前のワークショップについてでございます。今後の都市計画課としての展望、今後どうしていくのかということですが、阪急正雀駅前地区につきましても、大規模なハード面での再開発事業の実施は現在のところ難しいという状況でございます。

ただ、地元の住民の方が、まちづくりについて考えて話し合う場として、平成18年度から正雀駅前地区のまちづくり

ワークショップを開催しておるわけですが、今後につきましても、現在、十三高槻線の工事、正雀工区も行われております。この工事が、平成26年の春ぐらいに供用開始ということで大阪府のほうから聞いておりますが、この辺で、道路も供用してくれば、正雀地区のその後の人や車の動線、あるいは社会環境もある程度変化が予想されると我々も思っております。

市としては、このまちづくりのワークショップが、これからの地域の環境の変化も含めまして、住民が地域にとって何ができるのか、どんなまちづくりがいいのか等、ソフト面、ハード面も含めてでございますが、まちの活性化につなげていけるような意見交換をしていただく場と我々は考えておりますので、今後につきましてもこのワークショップにつきましましては、地元の活動を支援していきたいと考えております。

○藤浦雅彦委員長 寺田課長代理。

○寺田都市計画課長代理 南千里丘まちづくり事業の負担金で、継続費に載っておる部分につきまして、逡次繰越の部分につきまして予算概要のほうに記載がないと。逡次繰越の分については、決算概要でしか把握はできないのではないかとというような内容でお問いがあったかと思っております。

この負担金でございますが、継続費におきましては、阪急新駅の設置負担金は平成19年度に継続費の補正をしていただいておりますのでございます。

あと、境川周辺整備工事負担金につきましても、平成19年3月、平成20年3月の議会で補正予算をご可決いただいて、計上させていただいておりますのでございます。

そういったところで、平成19年度か

ら補正予算という形で、この費目については、平成20年度、平成21年度、平成22年度という形での予算執行をさせていただいておりますが、その継続費の中で、逡次繰越で使いきれない額については、次年度へ回すような形の仕組みになってございまして、この予算概要につきましましては、その当該年度で継続費の年割額で上げさせていただいている、当該年度の予算計上をさせていただいている部分しか載っておらないというところでございますので、こちらのほうについては、財政方と調整をさせていただいた中でこういう形でさせていただいております。決算概要につきましましては、こういう形でしっかりと記載をさせていただいているということでございます。

また、あわせまして、南千里丘まちづくり事業におきましては決算概要の30ページの下欄、それと南千里丘土地区画整理事業に関しましては32ページに、この継続費の全体計画、並びに実績、それと、それとの比較という形の表が、財政方のほうで作成をいただきまして記載をされておるようなところでございますので、平成23年度でもって、平成19年度から5か年にわたる継続費というのは、こういう形で最終精算という形でご報告もあわせてさせていただいておりますのでございます。

○藤浦雅彦委員長 吉田部長。

○吉田都市整備部長 補足をさせていただきます。

昨年、駅前等再開発特別委員会で、やはりこの継続費につきましましては、当初予算からの枠どりだけで、中身が非常にわかりにくいというご指摘をいただいております。今後、新たに継続費を使う場合においては、毎年度のある程度の報告をきちんとできるような、そういう仕組み

づくりを考えるべきだというご指摘もいただいております。

決算でしかわからないという部分がございますので、各年度の予算でわかるような流れをきちんとつくって、各委員にご理解いただけるような仕組みづくりを考えなさいというご指摘も今日までいただいておりますので、財政方と今後、方法等を詰めた上で、やはりもう少し親切な形で、例えば、参考資料で提案できるような、所管で対応できるような、マニュアル的な形が一番我々でも説明しやすいですし、そのあたりが今後の課題であり、宿題をいただいておりますので、今後、財政方とも話をしたいと考えております。

○藤浦雅彦委員長 弘委員。

○弘豊委員 要望だけしておきたいと思うんですけれども、ご説明いただきました継続費のことで、当初予算では南千里丘まちづくり事業で6,251万円と書かれていたのが、決算概要の予算現額のところでは、桁が違うわけです。大きな金額がここに記載されているということで、これには違和感を感じますし、今後、改善していくということでご答弁いただきました。本当に大きな金額を預かっている事業です。市民の皆さんに理解できるような形で、しっかりと取り組んでいただきたいと思っております。

阪急正雀駅前地区整備支援事業なんですけれども、やはり、私は今のご答弁の中では、正直なかなか納得できない部分も感じます。ハード面で具体的に前に進んでいけない事情というのは認識しているところなんですけれども、そんな中でもいろんなまちづくりの姿、今後動いていく情報をきちんとお伝えして、それでみんなで議論をして進めていくというふうな、そういうことをやられていくべきだというふうに思っていますし、平成2

4年度で1,000万円の予算を組まれています、駅前周辺の道路改良事業とか、そういったところと、どうリンクされているのかというふうなことも、今ご説明がありませんでしたし、また先ほど言われました十三高槻線のほうでは、ガードができて、その上部の活用とかいうふうなことの課題についてもあるんだというふうに思います。そうしたところに、ワークショップで集まっているような方たちが、皆さんがどうかかわってこられるのか。また、正雀周辺でいいましたら、商店街の活性化のこととかも、さまざまな課題があります。味舌小学校の跡地はどうなるのか、こういうことも正雀の地域の問題としてあるというふうに思うんです。

このワークショップは駅前にかかわってということだけではなく、地域でいろんな取り組みが展開されているという中では、都市計画課が担うからには、そういうふうな今後のまちづくりの展望、姿が見えるようなものにしていただかなくてはいけないのかなというふうに思っております。

また、今後の活動の中で、ぜひ、そういうことも活かしていただけたらというふうなことを申し上げまして、私のほうからは以上とさせていただきます。

○藤浦雅彦委員長 ほかに質疑はありますか。

大澤委員。

○大澤千恵子委員 そうしましたら、細かい点は、弘委員もいろいろお聞きされたと思いますので、私は要約をして、1点だけお聞かせいただきたいと思っております。

摂津市は市内に阪急正雀駅、阪急摂津市駅、JR千里丘駅、モノレール南摂津駅、モノレール摂津駅と、5つの駅があるわけなんですけれども、最近の傾向を

見ておられますと、JR西日本では、昨年5月に大阪ステーションシティを開きました。東京では、東急電鉄が今年の4月に高層複合施設の渋谷ヒカリエを渋谷に開業したり、またJR西日本等では、大阪駅の北側の「うめきた」を再開発されているみたいです。東西のJRで駅前の再開発が目白押しになっているわけなんです。

これは、実は何の背景があるのかといいますと、まず収入源の確保、鉄道会社は収入源の確保を今しているわけです。これはなぜかという、鉄道会社は、少子高齢化の進展で、通勤通学の運賃の収入減が今後予想されているという中で、鉄道会社は駅の立地のよさを有効活用して、物品、流通、レジャー、サービス、こういったことで減少分を補いたいというふうに考えているというふう聞いております。

そんな中で、本市の駅というのは本当に小規模で、そんな大きな駅ではありませんけれども、そういった地元の小さな駅も、今後どんどん同じような形態が多分進んでいくと思うんです。

こういった中で、やっぱり企業とのタイアップ、それから誘致の活動、優遇措置、そういったものを今から計画をされて、何とかこの今ある摂津市内の駅前を、全体を何とか活性化できるような方法、これはもちろん地権者との関係もありますし、商業施設が来るような条件を整えないとももちろんいけないと思うんですけれども、こういったお考え、今後どのように考えられているのかということをお聞きしたいと思っております。

○藤浦雅彦委員長 駅前等再開発特別委員会の所管である、阪急正雀駅前と、南千里丘のまちづくり、それから千里丘西地区に関してということでご答弁をお願い

いたします。

吉田部長。

○吉田都市整備部長 大澤委員がおっしゃる部分につきましては、まさしく、今後の大きな課題であろうと思えますし、地域の活性化も含めての話だと思えます。

例えば大阪市内の開発では、阪急百貨店が改装後、全面開業して、8万平米以上の床面積を持った商店ができる。その後阿倍野でも10万平米を超えるような百貨店もできてきているということで、駅前も、非常に今、活発化しているというのが現実でございます。

ただ、阪急正雀駅、JR千里丘駅で、例えば再開発を行った場合、地域がそういう商業だけの軸で、集客力のある開発ができるかどうか。一番、我々が心配するのは、今、再開発が停滞しております現状の中に、商業床が全然売れない。つまり、再開発が成立しないというのが非常に難問という、国も認めている内容でございます。それに反して、集客力が見込める地域、特に大阪市内、そのあたりは逆に活性化している。その周辺の衛星都市にかかわるような駅前に関しては、下手をすれば再開発の後に床は売れない、地域がシャッター通りになっているというのが実感でございます。

大澤委員がご指摘のように、やはり地域の活性化においては、今後、商業施策も含めまして、トータルで考えないと非常に難しいのではないかと。はっきり申し上げますけれども、大阪市内の開発に摂津市が勝つというのは基本的にできないと思えます。なぜならば、乗降客数からして違いますし、後背地の購買力も違います、そのあたりを考えますと非常に難しい。そして、企業が誘致をしましても、相当の担保を渡した中でないと来ないだろうというようなジレンマに入って

しまう開発になってしまうでしょう。ただ、それならどうすれば良いかといったら、やはり市民生活の利便性を向上させて、人口が減少しないような施策も含めて、幅広く考えるべきではないかというふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 大澤委員。

○大澤千恵子委員 今、ご説明いただいたとおり、現状としては、多分そういうことだろうなということは重々よくわかっております。

実際、小さな駅の駅前開発というのはどういうふうになっているのか。今現状、阪急摂津市駅を見ますと、やっぱり閑散としています。夜になると、ほとんど人通りがないというような現状で、市民の方からよく声を聞くのは、もっと若い方たちが集まる駅のほうがよかったんじゃないかという声もお聞きします。これは現実です。カーボン・ニュートラル・ステーションということで、非常に環境に配慮した駅ということですが、やっぱり時間がたつと、環境についてどこに配慮しているのと、市民の方たちも常にそれを意識しているわけではございませんので。そういった意味では、やっぱり何らかの集客ができるようなことも、施策として考えていく必要があるのかなというふうには思っております。

小さい駅の駅前の開発ってどういうふうにしていくのか。これから千里丘西地区もありますし、南千里丘のまちづくりとして、阪急摂津市駅前を今後どうしていくのかということも、いろいろかかわってくると思うんですけれども、住んでよかったと思える魅力的なまちを実現するために、小さい駅がいろいろアンケートをとっているんです。自治体のすべきことはなんですかと言うと、駅前周辺の開発というのはナンバーワンに上がってい

るんです。住環境の整備とか、企業誘致とか、いろいろあります。駅前に高層マンション、これは阪急摂津市駅ではされていることだと思いますので、ショッピングモールとか、それから現状の交通網を生かした住環境整備とか、交通の便がよいまちとか、いろんなことが市民のアンケートの中に出てきている現状があります、いろんなところを確認させてもらったんですけれど。ターゲットは、やっぱり学生とか、仕事帰りに寄れるところ、駅で時間がつぶせるというのは非常に多いんです。そういった中で、今、阪急摂津市駅、千里丘西地区の開発、こういったところを見たときに、やっぱりそういうことも必要になってくるんじゃないかなというふうに思っております。

先ほど、弘委員もおっしゃいましたけれども、阪急正雀駅前のワークショップです。これは、先ほどご説明いただきましたけれども、やっぱり全体的なまちの構想みたいなものは、含まれていくべきではないかなというふうに思っております。

その中で、一つの事例として、高校生が地域に取り組む「夢の駅前公園計画」というものがあります。これは、地元の高校生が自分たちの通学に利用する駅、こういったところをもっと活性化してこうということで、この「夢の駅前公園計画」というのをワークショップをしながらやっているわけなんですけれど、ここにはその高校生たちが実態調査とか、地元の自治会との協力で一緒になって、もちろん市も一緒になってやっているという事例があるんです。こういったことで、市の応援やもちろん地元の市議会議員、こういった方たちが、それぞれの立場から、まちづくりに対していろんな意見交換をしている場というのがあるんで

す。

今、新留課長がおっしゃったみたいに、地元の方たちで何回もするのもいいんですけど、もっと新しい方たちの発想も取り入れたようなワークショップに今後はして行っていただきたい。多分そんなにお金もかからないことですので、これから社会を担っていく若い世代の子どもたち、高校生、大学生、こういった方ももっともっと入っていただいて、ワークショップをして、例えば、先ほど言っておりました、十三高槻線の件ですね、こういったところも含めたことを、若い世代にも伝えていくということで、まちが少しは変わっていくんだなということを意識づけしてもらって、ワークショップを開催していただけるようになればいいなというふうに思っておりますので、これは要望とさせていただきます。

細かいところはいろいろありますけれども、駅前の開発というのは非常に重要だというふうに思っておりますので、今後力を入れて取り組んでいただきたいということで要望とさせていただきます。

○藤浦雅彦委員長 森西委員。

○森西正委員 細かい部分に関しては弘委員が質疑をされていまして、決算概要に沿って進めたいというふうに思います。

まず、阪急正雀駅前地区整備支援事業ですけれども、先ほどからも答弁としては、ワークショップでソフトの部分を市民の方に協力を得ながら進めていくということでありました。十三高槻線の話、車の動線ということもありました。市民参加という意味からすると、ソフト面ということになるかと思うんですけれども、行政としてソフトとハード両方で進めていくべきだというふうに思います。行政として、十三高槻線が開通して、車

の動線というふうなこともありましたが、その点は行政として絵をかいていくべきだというふうに思いますけれども、その点、どのように考えていくのか、お聞きしたいというふうに思います。

続いて、吹田操車場跡地まちづくりですけれども、摂津市は、都市型居住ゾーンと千里丘公園というふうなことでありますけれども、今までずっと駅前等再開発特別委員会でも議論されてきて、これからどういうふうな形で進めていくのかというふうなことで、これは吹田市と摂津市がともにまちづくりを進めていくというふうなことであります。この6月に、国立循環器病研究センターの報告がありました。その後、何か変化等があったのか、その点をお聞きしたいというふうに思います。

続いて、阪急京都線連続立体交差事業ですけれども、2万円の予算で2万円の執行ということで、この点は連絡会資料作成、協議会調査費の負担及び実施ということであります。平成23年度はどのような働きかけ、動きをされてきたのか、中身についてお聞きしたいと思います。

また、千里丘西地区市街地再開発支援事業であります。市長選の前、そのときに新聞でも掲載されました千里丘西地区市街地再開発です。本当に混雑をして、通行をどうするのか。車と歩行者が危険であるということが新聞でも掲載されましたけれども、準備組合との協議がどうなっておるのか、進展があるのか、また以前からいろいろと話を聞いておりますけれども、変わった形を今後とられるようなことができるのか、お聞きしたいというふうに思います。

続いて、南千里丘のまちづくり事業と土地区画整理事業ですけれども、まちづくりをされてから、当初考えておられた

まちの考えと、それと現在、まちづくりで実際にマンションが建設されたりとか、まちが動いておる中で、当初との市行政と実際の動きとの違いがあるのか、その点をお聞きしたいというふうに思います。

○藤浦雅彦委員長 今日では決算審査の委員会ですので、決算の内容に基づいて、その上での議論というのを心がけていただきたいということをお願いしておきます。

新留課長。

○新留都市計画課長 阪急正雀駅前地区整備支援事業でございますけれども、ソフト面では、現在も平成18年度から、いろいろな市民協力を得ながらさせていただいております。十三高槻線も2年後に開通してくるということで、行政としてハード面、車の動線等についてどういう絵をかいていくべきかということですが、これにつきましては、我々も十三高槻線ができてきますので、その辺は以前から認識しておりますので、道路管理課、道路交通課とも協議を行っております。そして、一部では、道路担当部署の方で用地買収も手がけていただいております。ですから、当然、十三高槻線が開通しますと、駅前の方にバス等も入ってくるという状況もありますので、その辺のバスの動線等も道路担当部署と一緒に、今後も考えていきたいというふうに思っております。

それから、千里丘西地区市街地再開発支援事業の状況でございますが、先般、新聞でも掲載されておりましたとおり、駅前が混雑しておると、歩行者が危険であるということも出ておりました。我々も、以前から非常に危ないということで、これにつきましても行政のほうでは、道路管理課、道路交通課とも、暫定的でもどういう安全対策ができるのかというこ

とで、今、対応を協議しておるところでございます。

それから、準備組合との話し合いで進展があるのかということでございますが、平成23年度に準備組合のほうで、既に10回ほどの理事会も開催していただいております。それから、平成23年度につきましても、準備組合が主体となりまして、大阪府の都市整備推進センターのまちづくり初動期活動助成金を受けまして、コンサルタント契約を締結されまして、事業化に向けて合意形成活動を今、進められておる状況でございます。それから、その中で、平成23年度につきましても、まちづくり意向調査も実施しておるところでございます。

○藤浦雅彦委員長 品川参事。

○品川都市計画課参事 吹田操車場跡地まちづくり事業の中で、今年6月に国立循環器病研究センターの報告があって、その後の変化はというお問い合わせですが、まず区画整理事業をやっていく中で、吹田市、摂津市、お互いが協力しながらまちづくりを進めていっているというところは変わっていませんが、6月に国立循環器病研究センターの建替整備構想検討委員会のほうから、条件つきではありますけれども、箕面市船場地区が発展可能性などを考慮して可能性があるという報告が今年の6月に出ております。

今現在ですが、箕面市のほうは、今いろいろと建物等も建っている状況ですので、本当に可能かどうかというようなことで、国立循環器病研究センター自身が「移転候補地（箕面市船場地区）の評価に関する調査業務委託」というものを発注しております。こちらがこの前、契約されたところで、平成24年11月2日から平成24年12月21日

までの約2か月間の期間ということで、国立循環器病研究センターのほうで今、箕面市の可能性の調査をされているというのが現状であります。我々もホームページ等から情報を入手している状況でございますので、わかっている情報としては以上でございます。

阪急京都線連続立体交差事業の2万円の執行と、平成23年度こういった動きをしたかということについてですが、阪急京都線連続立体交差事業の、予算概要の備考欄に、連立検討連絡会資料作成、連立協議会・調査費の負担及び実施と上げさせていただいておりますが、もともと事業としてはこれだけを行うということで、当初予算等の中で上げさせていただいております。実際に平成23年度の2万円を執行した中身は、大阪府の連続立体交差事業協議会というのがございまして、そちらに連立事業を施行中の関係市が入っております、その協議会分担金として関係市が2万円を支払っているということで2万円を支払っております。

平成23年度の取り組みですが、平成23年度はまず大阪府の中期計画、これに位置づけられないことには大阪府が事業主体となってございますので、まず大阪府がその事業をやっていくという大きな意思表示をました。もともとは年度半ばに策定されるということで、いろいろ協議を重ねておりましたが、知事の交代ということもございまして、実際にその中期計画に位置づけされたのが年度末になりましたが、中期計画への位置づけが第一ということで昨年度は取り組んでおりました。

○藤浦雅彦委員長 寺田課長代理。

○寺田都市計画課長代理 南千里丘まちづくり事業の部分で、竣工後、まちづく

りにおいて一定インフラ整備が整ってきたと。民間の建築も進んできている中で、当初の計画があった時点と今現在と、どのような違いがあるのかというお問い合わせです。

そもそも、南千里丘まちづくり構想ということで、平成18年に策定させていただいてる内容は、総合福祉会館等の周辺整備構想とあわせて構想をさせていただいております。構想としましては、健康、福祉、医療、それと文化、教育といったような内容をテーマにしまして、ハード面、それからソフト面といったところで整備をさせてきていただいております、このハード面に限りましては、今、ご審査いただいております南千里丘まちづくり事業、それから土地区画整理事業といったところで、阪急の新駅、それと新駅設置によりまして不足する駅周辺のインフラといったものをこういう事業費を使いながら整備をさせていただいたところでございます。また、民間の活力もいただきながら、コミュニティプラザ等の公共施設も駅前に整ってきたというような状況でございます。

そうした中で、民間のマンションも、このインフラ工事と同時並行で進んでおった部分につきましては、今年の春に入居も開始され、一定の人口の増加にも寄与してきておるところでございます。今現在も、B街区として、香露園交差点のあたりに35階建てのマンションが建ってきております。そうした中で、現在進行形ではございますが、そういう形で我々の考えておりますまちづくり構想にかなった形で一定、定住人口の増加も図られ、なおかつ公共公益施設の集約化も図られて、なおかつ「産・官・学・市民」と申し上げておりましたが、その産業の部分につきましても一定、本社機能を有した

企業も立地をされておるところでございますので、今後もそういった部分で、構想に幾分かの違いはあるかもしれませんが、大体そういうような状況で軌道に乗ってきた形になっておるかと思えます。

○藤浦雅彦委員長 森西委員。

○森西正委員 財政といいますか、お金のかかる部分がありますから、進めたいという気持ちはあっても、なかなかそれに伴ってこないという部分がありますし、財政が豊かであれば、どんどん進められるという点があろうかというふうに思うんですけれども、阪急正雀駅前地区整備支援事業に関しましては、ソフトという部分がありますけれども、それも市民の方にまちづくりを考えていただくことでもあります。ただそこには、摂津市が市民にソフトの部分を考えていただくけれども、方向性については市の考えを持ってもらわなあかんと、市が主体性を持った上で市民に考えてもらわなあかんということだとい私は思うんです。その点、市が主体性を持って考えていただいて、それに伴って市民が協力するというような形をつくっていただきたいというふうに思いますので、ソフト面もハード面もあわせて主体性を持ってよろしくお願ひしたいというふうに思います。これは要望とさせていただきます。

吹田操車場跡地まちづくり事業の件ですけれども、これも国立循環器病研究センターが来る、来ないによって、都市型居住ゾーンの中に建てられる建物自身が変わってきたりとかいうようなことも、出てこようかと思うんです。ですから、どちらが先になるのかというふうなこともあろうかと思うんです。国立循環器病研究センターが来てから、都市型居住ゾーンの開発を進めていくのか、もしくは都市型居住ゾーンを先に進めてしまうと、

後にも国立循環器病研究センターが来たときに、その用地がないというふうなこともなってきますので、これは動向を見てということにはなろうと思うんですけれども、吹田市と協調しながら、その点を進めていただきたいと思えますので、これも要望とさせていただきます。

それと、阪急京都線連続立体交差事業ですけれども、南千里丘のまちづくりをされて、阪急摂津市駅が開業してから、踏切の閉まる時間が以前よりもふえてしまっていて、交通渋滞を引き起こしてしまうということが実際にあります。その解消を図るには、やはり連続立体交差化を進めていかなければならないというふうなことでありますから、これは1年でも早くそういうふうになるように、大阪府と協議をしながら、中期計画の中に入れていただくということを速やかに行っていただくように、よろしくお願ひしたいと思えます。これも要望とします。

それと千里丘西地区市街地再開発支援事業ですけれども、平成23年は理事会も開かれて、大阪府の助成金でコンサルタントを呼ばれて、そういうふうな話し合いといいますか、事も進められるということですが、なかなか前に進んでいないというのが現状でありまして、今までと違う考えも持って、千里丘西地区市街地再開発支援事業というのを考えていかなければならないと思うんです。大口地権者の方がおられて、なかなか動いていただけないということもありますし、それであれば違う形でできないかというふうなことも進めていただきたいというふうに思いますので、その点は準備委員会もありますし、その点、協力、協調しながら進めていただきたいというふうに思います。

まずは千里丘西地区市街地再開発とい

うのが進められなくても、歩行者等の安全対策を最優先に進めるべきだと思うんです。その点は、市民の安心安全をまず優先に考えていただいて、検討していただきたいというふうに思いますので、これも要望とさせていただきます。

南千里丘のまちづくり事業ですけれども、これからB街区にも35階建てのマンションが建ってきます。新しい方もそこで生活をされたりというふうなこともなってきますし、新たな市民からの要望も出てこようかというふうに思いますので、その点は十分に要望を聞いていただいて、まちづくりを進めていただきたいというふうに思いますので。

全てに関してですけれども、これからマスタープランを作られるにあたっては各委員が質疑をされますし、他の議員からもさまざまな声があろうかというふうに思いますし、また市民からもさまざまな声があろうかというふうに思いますので、その点を十分、加味していただいて、マスタープランを作成していただいて、前に進むような、計画をつくっていただきたいというふうに思いますので、絵にかいた餅にならないような、そういうふうな計画をぜひともつくっていただきたいというふうに思いますので、要望とさせていただきます。私からの質疑を終わりたいと思います。

○藤浦雅彦委員長 ほかにございますか。

上村委員。

○上村高義委員 私のほうから1点だけ質疑をさせていただきます。平成24年度予算の段階でもこの委員会で、南千里丘まちづくり事業についての総括ということで質疑をさせていただきます。お答えいただいておりますけれども、今回の決算で、事務報告書の197ページにありますが、南千里丘地区まちづくり交付金

事業事後評価業務委託をされています。255万1,500円ということで委託されております。この件についてお尋ねいたします。駅前等再開発特別委員会で小まめなご報告をいただいておりますので、私はこの点についてだけお尋ねします。

今、森西委員の質疑に対する答弁で、南千里丘まちづくり事業について、まとめのような話を寺田課長代理のほうから話があったんですけども、この事後評価については市のホームページで情報公開されております。私は改めてこの委員会で聞いて、評価の概要について報告をこの場でいただいて、記録に残すべきだという観点から質疑をさせていただきます。

その中で、いろんな指標というのが載っておりますけれども、この指標の達成度というのをきちんとして答えていただきたいというふうに思っています。最終年度は平成27年の8月にしますということで、まちが活性化していけば、指標の数値も変わってくると思うんですけども、現時点での指標ということでここに載っておりますので、その数値をきちりと報告いただきたいということと、南千里丘まちづくり事業はいろんな紆余曲折があって、当初の計画と若干違う部分もたくさんありました。例えば境川の親水化ということなんかは当初の計画にはなかった。しかし、いろんなワークショップとか、大阪府との交渉、この駅前等再開発特別委員会で提案等々もあって、親水化というのもできてきたんですけども、そのことも含めて、報告をいただきたいということと、他市から行政視察に来られます。他市から来られたときに、一番の関心事は何かという点に興味があるんです。カーボン・ニュートラル・ス

テーションということもありますし、境川親水化というのもありますし、あるいは保健センター、コミュニティプラザもありますし、民間マンションも建っておりますので、他市から見た摂津市の評価、何に関心を持って見に来ておられるのかというのが、行政視察を受ける中で一遍聞いておきたい。摂津市の客観的な評価がどうかというのを知ることが必要になってくると思うので、その辺の感触をお話を聞きたいと思えます。

それと、ここに残された課題、計画変更があって、当初の目的があって、それに向けてまだ残された課題があるんだというふうに書いてます。とりわけ、阪急京都線の連続立体交差化を進めるためのワンステップであると。最終的には、阪急京都線の連続立体交差化に向けていくんだという話でありますし、当初は「産・官・学・市民」が連携したまちということでありましたけれども、そこら辺が進んでいるのかということと、先週、環境フェアというのがありましたけれども、あれはまさに「産・官・学・市民」が連携したイベントだったんですけれども、それ以外にもそういうイベントをずっと行っていくということが、当初の目的に合致するのではないかなと思ってますので、そこら辺についてお聞かせ頂きたいと思えます。

○藤浦雅彦委員長 寺田課長代理。

○寺田都市計画課長代理 まず、南千里丘地区まちづくり交付金事業事後評価業務委託の内容についてご答弁させていただきます。南千里丘地区におきましては、先ほど来、ご答弁させていただいておりますが、国土交通省所管のまちづくり交付金事業、今現在でいきますと社会資本整備総合交付金と名称が変わっておりますが、国庫補助でございまして、対象事

業費の40%を限度といたしました補助率という形でいただいております。

交付金をいただくに当たりまして、都市再生整備計画というものを南千里丘地区でこういったものを事業として挙げるのかという内容を記載した計画書がございます。これを平成19年3月に策定させていただいて、国土交通大臣の承認をいただいでまちづくりの事業に活かしてまいりました。

その中で基幹事業としまして、駅前広場であったり、駅周辺の境川の親水化の整備工事、自転車駐輪場、そういった駅周辺で駅の開業に伴って不足するインフラを、こういったまちづくり交付金の中で、柔軟性の高い事業でございますので、それをさせていただいております。あわせて、まちづくり懇談会というものを平成18年7月からさせていただいております。そういったものも交付金事業を活用して懇談会のほうの内容についても補助をいただけるといったような内容でございました。

ただ、ほかの補助事業と違ひまして、B/Cだとかそういうようなことではなしに、先に整備計画を策定する際に数値の指標、目標値を設定する中で、この補助金を交付されると。当然ながら、平成19年度から平成23年度にかけての補助の期間でございますので、最終年度に数値指標について確認をなささいということでございます。確認作業というのが国の指導によりまして、まず方法書というものを平成22年度に作成いたしまして、国土交通大臣の承認をいただいております。方法書に基づいて事後評価というものを行わせていただいておりますのでございます。

この中で主立った数値指標といたしますのが、市内の鉄道乗降客数、定住人口、

公共施設利用者数、レクリエーションの開催回数、この四つの指標で数値が当初、設定していた内容よりも目標値へちゃんと到達してるかどうかの確認を補助の交付期間の最終年度に行いなさいということでございます。

南千里丘地区におきましては、大体、平成22年度までにインフラ整備は整ってきてるんですが、ただ民間の開発等は遅れて開発が進行してきているようなところもございますので、昨年度、事後評価の調査をさせていただいた時点におきましては、まだ目標に到達していない項目もございます。ただ、国の指導によりますと、そうすると何年かおいて開発の動向をにらんだ中で再度、数値の確認をなさいたいというようなご指導もいただいております。

事後評価の業務を行うに当たりましては、庁内の関係各課の会議並びに市のホームページ、そういったところで意見募集をかけさせていただいております。それと、あわせて市民委員の方、3名にお越しいただきまして、事後評価の内容について検討、ご意見もいただきながら今後のまちのあり方、課題であったりだとか、そういうところの点についてもご意見を賜わりながら国土交通省、大阪府のほうへ報告をさせていただいたところがございます。

2点目の、当初計画から親水化等が追加されているというところがございますが、当初は区画整理事業を主にいたしまして、駅周辺の自転車駐輪場、それと産業道路踏切付近の広場の整備等がございました。それから、追加となっておりますのが、先ほど委員がおっしゃったとおり、境川のボックス化によります上面の親水化整備、こういうものは先ほど申し上げました懇談会によりまして、ワーク

ショップ形式で計28回させていただいている中で、市民意見として約1,700ものご意見を賜った中で、それを実現に向けて国、大阪府と協議しながら、大阪府の多大な協力もいただきながら進めさせていただいたところでございます。

3点目でございますが、他市からの行政視察について、何度か南千里丘地区に行政視察に来られております。先進的な取り組みをしてということがまず第一でございました。

ダイヘンの大規模工場がございました。そこを計画的な開発誘導で工場用地から土地利用転換を大々的に行っておることがまず第1点でございます。南千里丘地区が中心市街地でございます。その中で、先ほど吉田部長から答弁がございましたが、全国的に駅前の中心市街地が衰退する中で、駅直近に定住人口の確保並びに公共施設の再配置といったところで、歩いて暮らせるようなスモールシティ、こういったものについて全国的に非常に関心が強い度合いもございますので、環境面であったりだとか、そういうところもございますが、そういう土地利用転換というところでの取り組みは、非常に関心を持たれて視察にまられるような状況でございます。

最後、4点目でございますが、「産・官・学・市民」の連携でございますけれども、当初来、南千里丘まちづくり構想ということで、平成18年に構想を策定させていただいた際には、そういう連携、協力のもとに進めてくるということでございました。いろいろ平成18年から進めてくる中で、民間のご協力をいただく中でリーマンショックであったりだとか、いろんな社会経済情勢の変化の中で、やはり当初、計画していたとおりにはないところも多少あるかと思っております。

ただ、基盤となります道路、駅前広場、新駅、それと市民の交流の拠点になりますコミュニティプラザ、こういったもののハードは既にでき上がっておりますので、これを活かした形のソフト面の活用というのは、ここを基盤にしまして取り組んでいただけたらなど。これはつくった側の意見でございますので、これからはこの財産を活用していただいて、うまく住民とも取り組んでいけたらなどというのが原課の思いでございます。

○藤浦雅彦委員長 上村委員。

○上村高義委員 丁寧に説明いただきまして、ありがとうございます。

当初の目標と若干、違うところもあるけど、結果的には非常にいいまちができた。コンパクトシティというのは知ってたけど、スモールシティというのは初めて聞きましたので、それが非常に関心度が高いということでありまして、結果的には人口が2,000人ぐらい増えてきてるとということと、このことは税収増につながっていくというふうに理解してまいりますので、やはり費用対効果からいくとまちの活性化、市の存続性ということでは人がふえるか、あるいは税収がふえるか。そのことによって摂津市の社会福祉等々に投資していくんですけど、そういった意味では南千里丘のまちづくりということは、摂津全体を効果的に見ると非常に効果があったと。

さらに35階建てのマンションが今、建っておりますけども、ここにまた入居者が入って人がふえるということで、そのためにやっぱり近隣の整備も必要じゃないかなと思ってますし、境川の今の親水化工事の植え込み状況がもう一つ、まだ当初から木が成長していない部分もありますので、あの状態のままずっといくのか、もっともっと最終イメージはどう

だったのかちゃんと検証をしながら、親水化をもっと市民に親しみやすいように計画するにはどうしたらいいかと、まだまだ研究の余地があるんじゃないかなと思ってますし、評価書からいくと現在の目標達成ではまだ三角が三つほどあるんですけども、これは75点から80点ぐらいという感触かなというふうに思ってますけども、これから入居者、あそこに住む人がどんどん増えてくれば目標値も達成してくるんじゃないかなと思ってますし、そういった意味ではやはり今後ちゃんと見続けていく必要があるんじゃないかなと思ってます。

モノレール南摂津駅はできて15年たちましたけど、周辺に空き店舗がふえてきている状態であるんですけども、阪急摂津市駅のほうは店舗がないので、いかに住民が住みやすい環境をつくるかということに絞られてくるので、そういったところをこれは公共施設との連携とかということも必要になってくると思うので、その辺をお願いしたいと思っております。

そういうことで、調査結果につきましては非常に興味がありましたので、こういうことをきっちり報告されているということで、情報公開もされているということで、このことは広報等々でもお知らせしていくべきではないかなと思ってますので、こういったことも含めてまた情報提供をお願いしたいということで要望しておきます。

○藤浦雅彦委員長 三好委員。

○三好義治委員 駅前等再開発特別委員会については日頃、いろいろとまちづくりについて報告を受けています。今日は決算審査の委員会でございます。できるだけ数値をあげながら、確認を含めて質疑をしていきたいというふうに思います。

まず、先ほど来から議論のある社会資

本整備総合交付金、決算書の39ページに記載してありますが、補足説明においては255万1,000円が平成23年度に交付されて、これについては南千里丘地区まちづくり交付金事業事後評価業務委託の部分で使われたということで、事務報告書の中で255万1,500円が計上されております。私が気になるのは、39ページの歳入部分では、255万1,000円という数値が記載されていないように思えるんですが、この点についてはどういうことなのか、きちり整理していただきたいなと。

もう1点は、第4次総合計画の第3期実施計画を見ますと、南千里丘まちづくり事業の評価についての報告というのは平成23年度だけでなしに、継続して平成24年度、平成25年度まで報告をしなければならぬというような計画になってるんですが、それをした場合に交付金がこれからまだ2年、3年、おりてくるのか、交付されてくるのかという部分についてお聞かせいただきたいというふうに思います。

それから、事務報告書の197ページで、南千里丘562-3他1筆の分筆等測量業務委託を株式会社新都市二十一に35万7,000円で委託されています。委託業務については異論はないんですが、同じ企業に、南千里丘土地区画整理事業パンフレット作成業務委託をここに発注してるわけです。この企業というのは、測量が専門の企業なのか、印刷業務が専門なのか。測量会社ならば測量専門で報告書が挙げてこられるんですが、先ほどの説明を聞いてみますと、事業記念誌をここに委託したという話になってます。その企業はそういったこともオールマイティーでやられるのかどうかということについて、お聞かせください。

それと、決算概要でページ30ページ、継続費の考え方で、先ほどから議論もありましたけども、私も今まで指摘をしてきて、今後、見直していくという話は昨年の決算審査の委員会でもしていただいたんですが、まだ変わってないというのは、もうちょっとスピード感を持ってやっていただきたいというのが、まず1点です。継続費精算報告書を見ますと、数字がわからないのが、南千里丘まちづくり事業での年割額の欄でト25億3,592万1,000円のトータル予算を組んで、平成19年度から平成23年度まで、結果的に24億7,064万5,168円ということで終わりました。結果的には6,527万5,832円が浮いてきたということの中で、平成23年度の継続費の支出済額が8,252万3,900円だったんですね。不用額という意味合いで捉えるんだったら、支出というのは、この扱い方というのはいかなもんかなというふうに思うんですね。

また、比較の欄の財源内訳を見ますと、一般財源を相殺したような形の中でプラマイナスゼロになってますよね。これについての整理の仕方を教えていただきたいなと。これは支出額というよりも不用額になってくるんですね。年割額で幾ら組んでてもね。ここで何で一般財源で8,252万3,900円の支出額になってるのかというのが説明つきませんでしよ。決算での継続費の扱いは、私が昨年指摘してる部分が反映されてないということで、これは答弁いただきたいと思います。

それと、もう一つは、吹田操車場跡地まちづくり事業で、区画整理も含めてどんどん進んでいって、それと大阪府の事業も受けながらいろいろ取り組んでいただいているということは、評価をさせていただいてます。今回、決算概要を見ます

と、18ページに書いている吹田操車場跡地まちづくり事業で、市債の発行額が8,340万円です。この事業はこれから公園整備も進んでいく中で、中期財政見直しを見ていっても、平成26、27年度ぐらいまでこの事業は続いていくんですよ。ならば、市債発行した段階で継続費を組まなかったのかということが、平成23年度の動きの中で非常に気になるんです。なぜこれは継続費として組まなかったのか。

8,340万円の市債を発行してますので、気になるのは、市債発行をしていく中で一般財源をどれだけ投資していくのか、また国の補助金がどれだけおりてくるのかというのを見ておきたいんですよ。決算の中ではそれがあらわれてないということの中で、これについてお聞かせいただきたいと思います。

それと、南千里丘まちづくり事業で、もう1点、継続費の平成23年度支出済額の8,252万3,900円について、先ほど不用額という表現をさせていただきました。決算概要の128ページを開いていただきますと、南千里丘まちづくり事業の歳出決算額が8,523万1,247円になってるんです。この差額というのが、どこから捻出してきたのかなという部分、決算概要は支出を事業別で書いて挙げているわけですよ。そして、継続費についても、これも単独の継続費で組んでいる。僕が言うてるのは、本来ならば決算というのはどの数値を見ても合っとなないとだめやろというふうに思ってるんですけど、こだけ差が発生してるというのは、どういうお金の管理をしてるんかということについて、お聞かせいただきたいというふうに思います。

それから、千里丘西地区市街地再開支援事業と阪急正雀駅前地区整備支援事

業についても、先ほどからいろいろ議論がなされておりますけど、第4次総合計画の第3期実施計画を見ますと、それぞれ取り組みに対して反省もされてるんですが、やはり気になるのが、例えば千里丘西地区市街地再開支援事業については、平成23年度では再開発に対する方向性が確認されているというのが、平成23年度の計画やったんですよ。実際の実績は、目標の姿の実現まで至っていないという実績で、先般も今の動きについては確認もしてますけど、やはりこういったことについては、なぜこれができなかったのかということについて、一定、反省もしながら次に進めないと、平成24年度になりますと本来ならば再開発について方向性が確認され、関係権利者にも認知が広がっているというのが平成24年度には動いとかなあかん。でも、平成24年度はそこまでいってないから、この辺のことを踏まえて取り組んでいただきたい。これは要望しときます。

阪急正雀駅前地区整備支援事業についても同様なんですよ。そして、これについては今まで同じようなことばかり繰り返してやっていただいて、夜も休みもなしに行っていたらということとはよくわかってるんですけど、一定、やっぱり視点を変わっていただきながら取り組んでいただくということで、要望しときますので、その他についてはご答弁をお願いしたいというふうに思います。

○藤浦雅彦委員長 暫時、休憩します。

(午前11時52分 休憩)

(午後 1時 再開)

○藤浦雅彦委員長 再開します。

答弁を求めます。

寺田課長代理。

○寺田都市計画課長代理 まず、社会資本整備総合交付金の歳入額でございます

が、決算書に書かれてる内容が非常にわかりづらいということです。

決算書、歳入の38ページにございます社会資本整備総合交付金でございますが、こちらのほうに記載のございます1,355万1,000円という金額がございまして、こちらには他事業の1,100万の歳入も含まれております。残り255万1,000円が南千里丘地区のまちづくり交付金という名目が入っております。

次に、南千里丘地区まちづくり交付金がまだ交付されるのかというお問い合わせですが、南千里丘地区まちづくり交付金に関しましては、都市再生整備計画というものを平成19年3月に国土交通省のほうに承認をいただいております。計画というのが、平成19年度から平成23年度にかけての5か年でございます。当然ながら、この計画についての補助の交付という形になってまいりますので、平成23年度までの補助金の交付という形になってございます。

次に、分筆等測量業務委託とパンフレット作成業務委託について、こちらは南千里丘まちづくり事業と土地区画整理事業と二つの事業には分かれておりますが、同じ受託者ということになっておるということでございます。

この中で分筆等測量業務委託の内容を申し上げますと、まちづくり事業区域におきまして阪急電鉄のほうでバイク駐車場、これを民有地を借地されながら管理運営されてるところでございますが、そちらの前面の道路がちょうど坪井踏切の直近に当たってまいりますので、地元からのご要望もございましたが、踏切直近の歩行者の安全性、たまり場を確保するという目的で、民有地の所有者の方と区画整理で生み出しました公共用地と土地

の交換をいたしてる内容について、分筆測量業務委託をさせていただいております。

パンフレット作成業務委託でございますが、こちらのほうにつきましては区画整理事業の終了に伴いまして、地権者の同意により、地権者の共同事業者でございますジェイ・エス・ビーと事業記念誌の内容についていろいろ協議を行いながら、パンフレットを作成いたしましたところでございます。

この二つが同じ業者になってるということでございますが、換地計画、区画整理事業の計画を定めるに当たりまして、この業者が精通しておるといふところ、周辺、近畿圏でございますが、そういったところで数多くの事業の実績もございます。事業記念誌といった意味合いのパンフレット作成委託となっておりますので、どちらも見積もり合わせにはなっておるんですが、発注をさせていただいております。

最後に、継続費の平成23年度支出済額8,252万3,900円と、決算概要で示されている金額との違いについて、ご説明申し上げます。

まず、8,252万3,900円でございますが、委員がおっしゃるとおり、決算概要の30ページで南千里丘まちづくり事業の継続費の実績のところの支出済額、この平成23年度が8,252万3,900円となっております。ただ、左隣を見ていただきますと、平成23年度の年割額がゼロになっておると。予算がゼロなのに8,252万3,900円が出ておるといふようなところと、決算概要の128ページの南千里丘まちづくり事業費の決算額でございますが、8,523万1,247円となっております。この違いは何だというふうなお問い合わせです。

こちらにつきましては継続費に含まれている内容は工事にかかわる経費について継続費で計上させていただいております。それ以外に事務経費等にかかわる内容につきましては、単年度予算の部分で計上させていただいておりますので、委員がおっしゃるとおり、乖離が発生しているというところがございますので、ご理解のほうをお願いしたいと思います。

○藤浦雅彦委員長 吉田部長。

○吉田都市整備部長 それでは、まず継続費でございますけれども当初の継続費を設定した段階から最終のところまでの流れを細かく言いますと、事業ごとの流れも含めまして非常にわかりにくい。そしてその中身について審査しにくいというご指摘をいただいた内容でございます。

昨年も同じようなご指摘をいただきながら、今回の継続費も同じような項目になっております。ただ、この中身につきましてはご指摘の内容に沿った形で検討に入りたいという内容で先ほど財政当局と相談をいたしました。我々にとりましても自分たちだけが継続費の中身を管理してだけでなく、それをもって議会で議論をしていただけるような進め方をすべきというご指摘を先ほどいただいているということも踏まえまして、財政当局も表現の仕方、これについては不用額という表現も含めまして、どういう形で作らせていただければわかりやすいかということを検討したいということですので、我々のほうもそれをもって状況を報告したいと思いますので、その対応を考えてまいりたいと思っております。

それから、決算概要18ページの市債発行の件でございますけれども、これについても吹田操車場跡地まちづくり事業の関連でございますけれども、やはり吹田操車場跡地まちづくり事業も4年、5年と

継続的に事業を進めております。その部分でなぜ継続費として枠をとらなかったのか。仕組みでいえば同じじゃないかというご指摘です。

財政当局と協議しております中におきましては、やはり財政当局といたしましては継続費で枠をとるよりも、単年度で全て進めていきたい。単年度予算で明確に出していきたいというのが1点です。もう1点は、やはり財政支出のきちんとした規律として、単年度で枠をはめて、それで事業ごとにお示しできるような形が一番、財政としても好ましいということと、もう1点は基本的には継続費が本当に正しいかどうかという判断も含めまして、いろいろな角度から検討したいということも我々のほうは確認しております。

ただ、今回ご指摘いただいている継続費に関しましては、当初、平成19年度からこの形をとらせていただいたという経過がございますので、今回の決算で最終となりますけれども、今後、もし、継続費をとる場合は、先ほどお話をいただいた内容を踏まえた形の表づくり、そして財政当局が言っております財政規律を前提にした形の市債発行という形をもって、今後、事業に反映させていきたいというふうに思っておりますのでよろしく願います。

○藤浦雅彦委員長 三好委員。

○三好義治委員 それでは、2回目の質疑をさせていただきたいというふうに思います。

まず、最初に継続費の考え方については、吉田部長のほうから今、ご答弁いただいて、財政当局と調整をさせていただいた中で、今後、見直していきたいというご答弁をいただきました。

昨年の決算審査の委員会、それ以前の

予算審査の委員会からずっと終始一貫、私が言ってるのは、財政規律を明確にしなければならぬと。我々、議会側としてはチェック機能をいかに果たしていくかというのが仕事でございますし、使う側としてもやはり経費削減に努めなければならぬと。そういったことをお互いがわかるようにやっていくのが、これが財政規律の根本でございます。だから、今の継続費のあり方というのは、財政法に基づいて出していただいているのも重々承知ですけど、やはり議会に対しては、5か年の継続費を組んだ段階で、例えば3年経過したときに、あといくら予算が残って、どれだけの事業が残っているのかというのをお互いが知り合うべきものだというふうに思いますので、副市長や財政当局とも調整しながらこういった決算資料の記載方法を見直していただきたいというお願いをしておきます。

それと、吹田操車場跡地まちづくり事業については、市債の発行額が平成23年度で8,300万円計上されておりますけど、これも財政規律を考えたときに、吹田操車場跡地まちづくりでこれから公園整備を含めてインフラの整備を行うのに、全体予算が幾らかかるんやと、そして一般財源を幾ら投入しなければならないのかというの、やはり議会に示す必要があると思います。これについては来年度予算でそれが反映できるならば、そういったことで議会にもお示しただけの事業計画をぜひお願いしたいというふうに思います。

これは、中期財政見通しの中では、これからの土地売却収入も見込まなければならぬけども、一方で歳出も考えていかなければならぬ。こういった双方を見とかなければならぬので、これもぜひお願いしときたいというふうに思いま

すので、よろしくお願いいたします。

それと、社会資本整備総合交付金については、ご答弁いただいたんですが、決算書39ページには社会資本整備総合交付金で1,355万1,000円ということしか記載されていないんですよ。そして、口頭で駅前等再開発特別委員会の所管にかかわる金額が255万1,000円というご説明をいただいたんです。他の資料を見ても、どこにもこの金額があらわれてない。果たしてどこの金額をどういうふうに言ってるのかなという疑問がありました。先ほどいろいろお聞きしている段階で、1,355万1,000円のうち255万1,000円が南千里丘まちづくり事業分になるということが明らかになったんです。こういったところにも配慮が不足してるでしょ。社会資本整備総合交付金の中で、南千里丘まちづくり事業分として255万1,000円がありましたというのが本来、示すべき内容なんです。僕が言ってるのは、1,355万1,000円という歳入があって、じゃあ一体、何に使おうかという話の中で、結果的に南千里丘まちづくり事業を見積もってみたら、歳出で255万1,500円やったから、逆算してそれだけの予算を使わせてくださいというのが、この実態ではないかというご指摘をさせていただいてるんです。

もともと1,355万1,000円の世界資本整備総合交付金というものの、目的は何だったんですか。今、世の中で問題になってるのが、東日本大震災の復興支援という予算を組んで、実際にはいろんなところに使ってるのが問題になってますよね。予算がおりたから全額使わなあかんという部分で、目的から外れた使い方をしているのであれば、これはチェックしとかなければ、これは税金なんです

から。だから、まず交付金というのがどういう目的で交付されたのか。その中で南千里丘まちづくり事業というのが適切であったのかという部分について、ご答弁いただきたいというふうに思います。

そして、もう1点が南千里丘まちづくり事業の中で事後評価業務委託に対する交付金があと何年続くかというのが気になるんです。さっき言いましたように、第4次総合計画の第3期実施計画の中には評価業務はあと2年から3年、続くように報告されてるんです。そしたら、毎年、毎年、これからまた250万円程度の予算が執行されるかどうかというのが気になるんですね。だから、そこらのこれからの報告事務というのはいつまで続くんですか、予算は必ずつくんですかということもやっぱり気になるのでお答えいただきたいと思います。

それと、パンフレット作成業務委託について、これはパンフレットを見せていただきました。一番、事業に精通した測量委託をした業者、そこに発注された。中身についてはこういった部分ですからコメントは避けますけど、ならば一括発注ができへんかったのかなということで、パンフレット作成業務を発注したことについては、一番、精通しとったということで容認しますが、経費削減のために、じゃあ測量を含めて最終的にこういった報告書と合わせてパンフレットというのを一括でなぜ発注できなかったのかという疑問があるんです。経費削減のために。この点についてお答えいただきたいというふうに思いますので、よろしく申し上げます。

○藤浦雅彦委員長 それでは、答弁をお願いいたします。

吉田部長。

○吉田都市整備部長 まず、社会資本整

備総合交付金の件でございますけども、これは1事業の単品で補助額をとるのではなく、複数の事業メニューを入れて一つのパッケージで摂津市から補助申請を出すという形でございます。だから入ってくる形は何々事業に対して幾らという形の入り方はしないんです。その部分で、歳入といたしましては社会資本整備総合交付金という形で一括で入ってまいりますので、表現的にはこうなってしまったというのが現実だと思っております。

ただ、これですと非常にわかりにくいということで、補足説明のときに内訳としてご説明させてもらったのですが、本当は内訳として書くのが親切だというのは我々も思っております。決算書の作成については我々も詳細はわかりませんが、やっぱり入れるべきだったなという反省は我々としては持っております。だから、今後、そういうパッケージ物については、相当な数が入る場合もありますので、事業メニューが20も30もある場合もありますので、それをパッケージで40%の範囲内というような交付金の交付の仕方をします。だからそのあたりは一遍、表現をどうするかというのは出していきたいということです。それから、対応する事業が分かりやすいようにマーキングする等、対応関係が分かるような、何かそういう配慮も含めまして考えるべきであろうというふうに考えております。

次に、事後評価業務委託を継続的に平成27年度までやるのか、それに対して毎年250万円からのお金が要るのかということでございますけども、今回の事後評価業務委託につきましては基本ベースはもうできております。これも国で認められた内容に則しております。あとは、数字的な見地なり、例えばイベントの回

数とか、乗降客数とか、人口とかそういう部分でございますので、我々行政が持っている基本ベースの資料を持って国に対して手弁当でお返しできるというふうに我々は理解しておりますし、そのような形で事業評価調査書も作成いたしております。だから、今後はこれに対して予算を挙げることは基本的には考えておりません。

次に、今後、社会資本整備総合交付金がいままで続くんだということでございますけれども、我々の南千里丘まちづくり事業に関しましては、基本的にはもう終わりますけれども、ただ今後、府を通して若干、聞いている内容とすれば、まだほかの事業もございまして、当然、こういう事業の中で、先ほど委員もおっしゃった、東日本大震災の関係で相当、補助金額がカットされてくるであろうということもございますけれども、こういう制度がなくなるというのは今のところ考えられない。形を変えて何らかの形であるであろうというのが大阪府の反応でございますけれども、我々も先が見えませんが、だから非常に今、混沌としておりますので、そのあたりは我々には判断できませんけれども、この影響はすごくあると我々も思っております。当然、そのあたりを踏まえて、結局、国もそのあたりを判断していただけたらと思いますけれども、南千里丘まちづくり事業に関しましては終わりますので、この影響は直には受けないなとは思っております。

次に、経費削減のため、分筆等測量業務委託とパンフレット作成業務委託を一括発注すればよかったのではないかとございまして、実はなかなか難しいんでございまして、交付事業の工期的なものも含めまして、パンフレットの作成時期と測量の時期が相当、離れ

ていまして、測量の時期が平成23年4月から6月の期間、そしてパンフレットが平成24年2月から3月の期間ということになっておりまして、ご指摘いただいているように同じ業者であれば経費を落とす努力もできるんじゃないかということで、本当は同時に発注することがベストだと思います。ただ、パンフレットを見ていただいたらわかりますけど、民間との連携でつくっております、民間の承諾をもらわないと勝手にはつくれないと。事業そのものが共同事業でございまして、そのあたりの協議とか表現とかいろいろなものを踏まえまして、また向こうは社内決裁もありまして、若干、遅れたということもあって、これを後追いで見積もり合わせでやったというのが現実でございまして、その点について、ご理解を賜りたいというふうに思っております。

○藤浦雅彦委員長 渡辺委員。

○渡辺慎吾委員 1点だけお聞きしたいと思っております。

多くの委員さんからも質疑がありましたが、決算概要の千里丘西地区市街地再開発支援事業について決算額を見てみると、非常に少ない金額でやっておられて、執行率ももう一つというふうに思います。

森山市長が匂を逃したらこういうことになるねんということで、紆余曲折をしながら現在に至るとるわけですけど、大口地権者の思惑と、それから一般地権者の思惑、そして市の思惑がそれぞればらばらになっておるような状況が長く続いているようなことじゃないかというふうに思いますし、再開発というのはさまざまなかちで行われておったわけですが、そのほとんどが失敗に終わったような状況でありまして、それは計画して実行すると

きと、時間がかかった中で現実にマッチしてないような状況。できた段階で時代遅れのような段階の再開発が全国で展開されたということが大きな原因だというふうに思います。この再開発、やっぱりプロデューサーが必要だというふうに思います。この場合は、それぞれの思惑が違う場合は市が率先してプロデュースをすることが必要というふうに思いますし、プロデュースによっては進捗状況も変わってくると思いますし、平成23年度の決算ですから、この状況で何でこんなに予算が少なく、何で執行率がこんなだけやったんやということをまず聞いて、それから今後、プロデューサーとしての副市長に、どのような展開になるか、お聞かせ願いたいというふうに思います。

○藤浦雅彦委員長 答弁をお願いします。

新留課長。

○新留都市計画課長 千里丘西地区市街地再開発支援事業、非常に予算も少ないですけども、執行率も中身的には我々が大阪府との協議で出張旅費を使っているというぐらいしか実際は表には出てきていないです。

ただ、先ほども申し上げましたとおり、準備組合が昭和63年からできておまして、そして何回もチャレンジをしてこられまして、平成23年度にはコンサルタントに委託され、大阪府都市整備推進センターのまちづくり初動期活動助成金も活用されまして、そしてコンサルタントも入りまして、地権者の合意形成活動を進めております。そしてその時にまちづくりの意向調査もさせていただいております。その中で、調査対象者50名のうち43名から回答をいただきまして、やはり回答者のうち60%につきましては、再開発事業に参加していきたいという意向も持っておられます。ということ

で、アンケートの結果を見ますと、地区が抱える問題が明確になってきており、再開発の必要性を権利者の方々も再認識するという形で考えておられる状況でございます。

その後、先般の10月23日には準備組合としまして、今後の取り組みにつきましての臨時総会も開催されております。そして、臨時総会におきましては準備組合として事業化に向けた検討を本格的に推進していきたいということで、千里丘西地区におけます再開発事業の事業化に向けた推進に関する決議もなされておる状況でございますので、我々としても準備組合に対して、来年度からですけども、できれば資金的な補助も考えていきたいというふうに思っておるところでございます。

○藤浦雅彦委員長 吉田部長。

○吉田都市整備部長 副市長から答弁を、ということでもございましたけど、状況も踏まえまして、私のほうからご説明をさせていただきたいというふうに思っております。

プロデュースということで、プロデュースするのが市がいいのか、それとも市が後ろで支える役がいいのか。プロデュース、先導役については民間活力を利用するほうがいいのか。先ほど、渡辺委員がおっしゃったみたいに、再開発ができた段階で時代遅れになっているというのは現実でございます。活性化を期待するのに、活性化ではなく、維持するのに大変というのが再開発に関してよくいわれる話です。これは行政が主導をとりますと、大概の再開発はシャッター通りが多くなるというのは一般的に言われる話です。ただ、民間活力を利用すると悪いものはリニューアルしますから、その回転によって活性化していくということも我々、

聞いておりました、先ほどありましたように、それでは行政の役割というのはどんな形で支えて支援するのかということが我々の責務であり、課題だと考えています。

先ほど課長から申し上げたように、今現在の準備組合の状況は、市に対して推進決議をされました。正式にそれをもって市長のほうに、今後とも協力をお願いしたいということで来られております。それを踏まえて我々は千里丘西地区市街地再開発支援事業について今後、やはりどういう形で支援できて、国の制度をどう活用できるのか、こういうことも府と協議しております。うまく活用しながら第一歩が踏めるように。踏むための課題としては、当然、地権者同意を得られるような、前もご説明申し上げましたけども、建物の中に入ってくださいというのが今までの再開発です。今度は区画整理の制度みたいなものを取り入れて、結局、建物と土地と分離した形で、事業としては1本ですけども、という選択肢をふやす、こういうようなやり方ができないか。これにプラス、再開発もそうです、区画整理もそうです、税法上の特例も受けられますから、そういう特例を受けられる事業として成立させていきたいというふうに思っております。その考え方を持って、来年度、できましたら我々も準備組合とともに一緒に進めて、地権者の合意形成の形の中で進めていきたいなど。先ほど説明がありましたけども、6割近くが再開発について意欲なり意識を持っていただいておりますので、そのあたりも分離できませんので、市として今はバックアップしながらやりますけども、ただその間に入る民間なり、そういうデベロッパーとして、きちんとした形のものをつくり上げて、組合施工として成立させる

のが我々の責務というふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 渡辺委員。

○渡辺慎吾委員 部長がご答弁されましたが、よくわかりました。とりあえず今まで休眠という形の状態ではないと思うんです。でも実際、予算の金額を見たり、執行率を見ていると、ほとんど休眠状態やったというふうに思いますし、大口地権者もそれから一般地権者も時間の経過によってそれぞれの立場も変わってくるというふうに思います。その段階で今、来るところまで来てしまったような状況で、さまざま面で新たな展開があるでしょう。行政としたら逆にやりやすくなってきたというようなことがあって、一気にそういう形がとられるというふうに思うんです。

私は民間に任せることがいいのか、それから公がやることがいいのかということ比べたら、今の現状では、先ほど部長がおっしゃったように、公が率先してやるのが適切かということになったら非常に疑問を感じるわけで、民間の力を借りることが必要というふうに思うんですけど、ただその辺の、行政がやったら時間がかかるということもあるんですけど、ただ民間の方々の思惑がそれぞれ違ったり、それぞれのご事情がある中で、なかなか民間の方々をまとめる、プロデュースするのが難しくなってくるんじゃないかというふうに思いますし、その辺のことを慎重に協議しながら、もちろん地権者の話を聞きながら、また周辺の住民の方々の話を聞きながら、しっかりやっていくことが、非常にこれは難しい問題であり、しかし摂津市をアピールするいい機会だというふうに私は思うんです。そういう点で多くの知恵をかりながら、よりすばらしいものにしていって

いただくように、要望しておきたいと思
いますので、よろしくお願いします。

○藤浦雅彦委員長 以上で質疑を終わ
ります。

暫時休憩します。

(午後1時35分 休憩)

(午後1時37分 再開)

○藤浦雅彦委員長 再開します。

討論に入ります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○藤浦雅彦委員長 討論なしと認め、採
決します。

認定第1号所管分について認定するこ
とに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○藤浦雅彦委員長 賛成多数。

よって本件は認定すべきものと決定し
ました。

これで本委員会を閉会します。

(午後1時38分 閉会)

委員会条例第29条第1項の規定によ
り署名する。

駅前等再開発特別委員長

藤 浦 雅 彦

駅前等再開発特別委員

大 澤 千 恵 子